

別添 1

令和 6 年度  
基本評価シート  
様式

(兵庫県環境部自然鳥獣共生課)

## 基本評価シート（ニホンジカ）

### ■ 1. 事業概要

事業名（※1）	令和6年度指定管理鳥獣捕獲等業務		
都道府県名	兵庫県	担当者部・係名	環境部自然鳥獣共生課
担当者名	音無 亮太	担当者連絡先	078-362-3463
捕獲実施事業者	（一社）兵庫県猟友会	予算額（※2）	128,221,773 円
		予算額の内捕獲に要する経費（※3）	25,759,800 円

（※1）交付金を用いて実施した事業名を記入。複数ある場合は、事業件名ごとに記入。

（※2）予算額は、交付金の対象となる指定管理鳥獣捕獲等事業の全体予算を記入する。

（※3）予算額の内、捕獲に要する経費は、平成28年度から適用される交付金所要額調書様式1-2「2指定管理鳥獣の捕獲等」の内訳を記入。その他にも、捕獲に要する経費がある場合は、別途加算する。

### ○令和5における生息等の状況及びこれまでの個体群管理の取組み

#### 〈指定管理鳥獣捕獲等事業の実績〉

事業目標 （目標頭数などの数値目標）	実施結果	
	捕獲頭数	目標達成率
シカ 420 頭	594 頭	141.4%

#### 〈生息等の状況及びその他の捕獲実績〉

推定生息頭数	特定計画管理目標	目標生息頭数
150,520 頭	頭	-
狩猟捕獲数	許可捕獲（有害）	許可捕獲（個体数調整）
頭	頭	一頭

### ○これまでの個体群管理の取組み（都道府県単独事業）

なし
----

## 2. 令和6年度指定管理鳥獣捕獲等事業の実施概要

項目	概要
事業背景・目的	<p>有害捕獲等による捕獲が実施されていない地域において、指定管理鳥獣捕獲等事業による捕獲を強化し、生息域の拡大防止と早期の生息頭数の減少を目的として実施。</p> <p>特定計画の中では、個体数管理の手法として、指定管理鳥獣捕獲等事業を位置付けしている。</p>
	<p>【選択欄】</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 特定計画の管理目標に不足する捕獲数を高密度地域で上乘せした。</p> <p><input type="checkbox"/> 分布拡大防止を目的として生息域の外縁で捕獲を実施した。</p> <p><input type="checkbox"/> 効果的な捕獲手法の開発を行なった。</p> <p>※事業実施目的に最も近いものを1つ選択。</p>
人材育成の観点	<input checked="" type="checkbox"/> 人材を育成するための配慮、取組がなされている。
実施期間	R06. 7. 3～R07. 3. 21
実施区域	<p>1：生息区域が広がりつつあり、有害捕獲が実施されていなかった地域で実施。</p> <p>※2：事業計画の地図がある場合は、図面を添付</p>
関係機関との協力	市町、観光協会、地元猟友会等が連絡調整のうえ実施
事業の捕獲目標	<p>( 141. 4%達成)</p> <p>= (594 頭 (実績値)) / (420 頭 (目標値))</p>
捕獲手法	<p>【銃猟】</p> <p><input type="checkbox"/> 誘引狙撃 <input checked="" type="checkbox"/> 巻き狩り <input type="checkbox"/> 忍び猟</p> <p><input type="checkbox"/> モバイルカリング <input type="checkbox"/> 夜間銃猟</p> <p><input type="checkbox"/> その他 ( )</p> <p>【わな猟】</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> くくりわな <input type="checkbox"/> 箱わな <input type="checkbox"/> 囲いわな</p> <p><input type="checkbox"/> その他 ( )</p> <p>※1：各種猟法の定義は〇ページ参照、※2：複数チェック可</p>
捕獲個体の確認方法	<p><input checked="" type="checkbox"/> 個体の身体の一部（尻尾）</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 写真（詳細を記載： )</p> <p><input type="checkbox"/> その他 ( )</p> <p>※複数チェック可。</p>
捕獲個体の処分	<p>捕獲個体の処分について</p> <p><input type="checkbox"/> 全て焼却又は埋設を行っている。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 一部、食肉等への活用を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 一部、放置を認めている。</p> <p>※複数チェック可</p>
環境への影響への配慮	<p>わなによる錯誤捕獲について</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 錯誤捕獲の情報を収集している。</p> <p><input type="checkbox"/> 錯誤捕獲の実態は不明である。</p> <p>わなによる錯誤捕獲の未然防止について</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 錯誤捕獲の防止対策をしている。</p> <p>(内容：餌に「イキューブ」を利用した)</p> <p><input type="checkbox"/> 錯誤捕獲の防止対策はしていない。</p> <p>鳥類の鉛中毒等について</p> <p><input type="checkbox"/> 鳥類の鉛中毒症例がない。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 鳥類の鉛中毒症例が確認されている。</p>

	鉛製銃弾について <input type="checkbox"/> 全て鉛製銃弾を使用している。 <input checked="" type="checkbox"/> 一部、非鉛製銃弾を使用している。 <input type="checkbox"/> 全て非鉛製銃弾を使用している。
安全管理の体制	業務実施前には、業務計画書を作成させ提出を受け実施。関係機関への連絡調整のほか、現地での事前告知等も十分に行い実施した。
捕獲従事者の体制	【雇用体制】 捕獲従事者数：39 人 （内訳） 正規雇用者：10 人、期間雇用者：1 人、日当制： 28 人

### 3. 令和6年度指定管理鳥獣捕獲等事業の評価

#### ○指定管理鳥獣捕獲等事業の達成状況の評価について

1. 捕獲に関する評価及び改善点※	
【目標達成】	評価： 目標頭数捕獲できたので適正であった。
	改善点：
【実施期間】	評価： 狩猟期までに大方の業務を終えたので適正であった。
	改善点：
【実施区域】	評価： 有害捕獲が実施できていない地域で多く捕獲されており適正であった
	改善点：
【捕獲手法】	評価： わな、銃猟ともに適正であった。
	改善点：
2. 体制整備に関する評価及び改善点	
【実施体制】	評価： 適正に配置されている。
	改善点：
【個体処分】	評価： 適正に処分されている。
	改善点：
【環境配慮】	評価： 適切に実施されている。
	改善点：
【安全管理】	評価： 適切に実施されている。
	改善点：
3. その他の事項に関する評価及び改善点	
<p>学識経験者等第三者の意見として、森林動物研究センターから以下の意見があった。</p> <p>効果的な捕獲手法により、多くの捕獲実績が上がったことが評価される。</p> <p>今後は、地元捕獲班に手法を学び理解し習得する機会を設けることで、更なる捕獲数の増加が図られるよう期待する。</p>	
4. 全体評価	
適時適切な実施方法により目標を達成した。	

※「改善点」の欄には、評価結果を次期の指定管理鳥獣捕獲等事業実施計画にどう反映するか等について記入する。

#### ○第二種特定鳥獣管理計画の目標に対する、本事業の寄与状況について

様々な手法を用いて個体数管理を行っており、当事業の捕獲は計画目標に寄与している。

#### 4. 必須となる記録項目

##### (1) データの整備状況

##### ア) 基礎となる記録項目の整備状況

指定管理鳥獣捕獲等事業において整備している情報の項目にチェックをつける。

項 目	整備状況	備考
①捕獲数・目撃数・捕獲努力量等の位置情報	<input checked="" type="checkbox"/> 行政区域（都道府県・市町村）ごと <input checked="" type="checkbox"/> 事業区域ごと <input type="checkbox"/> 5 km メッシュ <input type="checkbox"/> 1 km メッシュ <input checked="" type="checkbox"/> 捕獲地点（緯度経度） <input type="checkbox"/> 捕獲等に関する位置を記録していない	
②捕獲数	<input checked="" type="checkbox"/> 捕獲した個体の総数 <input checked="" type="checkbox"/> 雌雄の別 <input checked="" type="checkbox"/> 幼獣・成獣の別 <input type="checkbox"/> その他捕獲した個体に関する情報（ ）	
③目撃数	<input checked="" type="checkbox"/> 作業の従事者が目撃した個体の総数	銃猟のみ
④捕獲努力量	<input checked="" type="checkbox"/> 銃猟：のべ作業人日数※ <input checked="" type="checkbox"/> わな猟：わな稼働日数 （わな稼働日数＝わな基数×稼働日数）	

※のべ作業人日：捕獲作業期間中に捕獲に従事した作業人数の合計。事前調査や下見に費やした作業の人日数は除く。

##### イ) 捕獲に関する概況地図の作成の可否

	作成できる概況図（地図）※についてチェック	
捕獲位置の地図	<input type="checkbox"/> 5 km メッシュ地図 <input type="checkbox"/> 1 km メッシュ地図 <input checked="" type="checkbox"/> 地点（緯度経度）地図 <input type="checkbox"/> 捕獲位置の地図を作成できない	
CPUE の地図	<input checked="" type="checkbox"/> 5 km メッシュ地図 <input type="checkbox"/> 1 km メッシュ地図 <input type="checkbox"/> 地点（緯度経度）地図 <input type="checkbox"/> CPUE の地図を作成できない	
SPUE の地図	<input checked="" type="checkbox"/> 5 km メッシュ地図 <input type="checkbox"/> 1 km メッシュ地図 <input type="checkbox"/> 地点（緯度経度）地図 <input checked="" type="checkbox"/> SPUE の地図を作成できない	
概況図を作成する		

上での課題	
-------	--

※概況図は原則として添付する。添付できない場合は「作成できない」をチェックする。

(2) 実施結果（必須となる記録項目）

ア) 捕獲努力量に関する事項

①銃器による捕獲

外業の人日数総数※1： 34 人日

事前調査人日数概数※2： 4 人日

出猟（捕獲作業）人日数： 30 人日

項 目	令和6年 (事業年度の値)	令和5年 (前年度の値)	増減の傾向
捕獲努力量（銃猟） のべ人日数	34 人日	92 人日	<input type="checkbox"/> 増加 <input checked="" type="checkbox"/> 減少

※1:事前調査人日数概数と出猟（捕獲作業）日数の合計

※2:事前調査人日数概数は、捕獲作業直前の下見・調査を含まない。

②わなによる捕獲

外業の人日数総数※1： 465 人日

事前調査人日数概数※2： 55 人日

出猟（捕獲作業）人日数： 410 人日

項 目	令和6年 (事業年度の値)	令和5年 (前年度の値)	増減の傾向
捕獲努力量（わな猟） わなの稼働総数（わな基×日数）	3,070 基日	4,000 基日	<input type="checkbox"/> 増加 <input checked="" type="checkbox"/> 減少

※1:事前調査人日数概数と出猟（捕獲作業）人日数の合計

※2:事前調査人日数概数は、捕獲作業直前の下見・調査を含まない。

# イ) 捕獲に関する結果

## ①銃器による捕獲

項 目	令和 6 年 (事業年度の値)	令和 5 年 (前年度の値)	増減の傾向
① 捕獲数	18 頭	55 頭	<input type="checkbox"/> 増加 <input checked="" type="checkbox"/> 減少
② 目撃数	158 頭	303 頭	<input type="checkbox"/> 増加 <input checked="" type="checkbox"/> 減少
③雌雄比 (雌捕獲数／全捕獲数)	0.44 (8 頭/18 頭)	0.75 (41 頭/55 頭)	<input type="checkbox"/> 増加 <input checked="" type="checkbox"/> 減少
④幼獣・成獣比 (幼獣数／全捕獲数)	0.00 (0 頭/18 頭)	0.13 (7 頭/55 頭)	<input type="checkbox"/> 増加 <input checked="" type="checkbox"/> 減少

## 令和 6 年度指定管理鳥獣捕獲等事業における捕獲手法別（銃器）の捕獲実績

捕獲手法	捕獲実績	作業人日数※1	CPUE※2	SPUE※3
<input type="checkbox"/> 誘引狙撃	頭	人日	頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少	頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
<input checked="" type="checkbox"/> 巻き狩り	18 頭	30 人日	0.600 頭/人日 <input checked="" type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少	5.267 頭/人日 <input checked="" type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
<input type="checkbox"/> 忍び猟	頭	人日	頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少	頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
<input type="checkbox"/> モバイルカリング	頭	人日	頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少	頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
<input type="checkbox"/> 夜間銃猟	頭	人日	頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少	頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
<input type="checkbox"/> その他 ( )	頭	人日	頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少	頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少

※1：作業日数には捕獲を実施していない誘引期間は含まない。

※2：CPUE＝捕獲数／のべ人日数

※3：SPUE＝目撃数／のべ人日数

※CPUE、SPUE は前年度の指定管理鳥獣捕獲等事業と比較して、「増加」「減少」をチェックする。



②わなによる捕獲

項 目	令和 6 年 (事業年度の値)	令和 5 年 (前年度の値)	増減の傾向
① 捕獲数	576 頭	546 頭	<input checked="" type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
②雌雄比 (雌捕獲数／全捕獲数)	0.56 (320 頭/576 頭)	0.49 (275 頭/546 頭)	<input checked="" type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
③幼獣・成獣比 (幼獣数／全捕獲数)	0.31 (175 頭/576 頭)	0.29 (135 頭/546 頭)	<input checked="" type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少

令和 6 年度指定管理鳥獣捕獲等事業における捕獲手法別（わな）の捕獲実績

捕獲手法	捕獲実績	わな稼働総数※1	CPUE※2
<input checked="" type="checkbox"/> くくりわな	576 頭	3,070 基日	0.188 頭/基日 <input checked="" type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
<input type="checkbox"/> 箱わな	頭	基日	0.041 頭/基日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
<input type="checkbox"/> 囲いわな	頭	基日	頭/基日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
<input type="checkbox"/> その他 ( )	頭	基日	頭/基日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少

※1:わな稼働総数には捕獲を実施していない誘因期間は含まない。

※2:CPUE＝捕獲数／わな稼働日数

※CPUE、SPUE は前年度の指定管理鳥獣捕獲等事業と比較して、「増加」「減少」をチェックする。

エ) 捕獲個体の適切な処理

処理にかかる人工概数： 約 16 人

処理した個体のうち、食肉等への活用した個体の数量概数： 125 個体

適正な捕獲が実施されたかを確認する手法

捕獲手法は、地域により様々なものが想定されることから、下記の定義は本評価シートでの暫定的なものです。

誘引狙撃	餌等により、対象種を誘引し、所定の位置から銃器により捕獲等する猟法。
巻き狩り	犬や勢子により追い出した対象種を、所定の位置で待機する射手が銃器で捕獲等する猟法。
忍び猟	単独の射手が徒歩で対象種を追跡して、射撃可能な地点で銃器により捕獲等する猟法。
車両を用いたモバイルカリング	所定の巡回ルートを車両で移動し、射撃可能な位置の対象種を銃器により捕獲等する猟法。
夜間銃猟	法律上必要な手続を全て完了した上で、日出前若しくは日没後においてする銃器を使用した鳥獣の捕獲等。

別添 2

付属評価シート  
様式

## 付属評価シート（ニホンジカ）

付属評価シートでは、基本評価シートを補足する資料として、事業の費用対効果、個体群に与えた効果、環境への負荷等を評価する。特に、指定管理鳥獣捕獲等事業に直接関係する項目は、指定管理鳥獣捕獲等事業の単年度の事業評価に直接的に関係する情報として、収集することを推奨する項目である。

### 1. 指定管理鳥獣捕獲等事業に直接関係する項目

#### （1）費用・労力に関する項目

事業に要した費用に対する実施結果の評価は、単に、捕獲頭数当たりの総事業費で算定をするのではなく、捕獲や捕獲以外に要している労力を加味した評価とすること。

費用・労力に関する評価項目		定量的評価の算定	評価する上での課題等
捕獲作業に割ける労力		捕獲経費のしめる割合＝捕獲経費÷総事業費 ( 63% ) = ( 10,806,745 ) / ( 28,989,400 )	
事業全体の中で捕獲作業以外に割く労力	事前調査に要する労力	以下、該当する算定方法にチェックをいれる。 <input type="checkbox"/> 調査等の事業費÷総事業費 ( ) / ( ) <input checked="" type="checkbox"/> 総人工数に対する調査に要する人工数の割合 (調査人工概数 59 ) / (総人工数 383.2 ) <input type="checkbox"/> その他 ( )	
	移動に要する労力	<input checked="" type="checkbox"/> 最も遠い作業場所において、一日当たりに要した移動時間と捕獲作業のために確保できた実働時間の例を記入 (移動時間 約2時間40分) + (実働時間 約8時間) <input type="checkbox"/> その他の算定方法 ( )	
	捕獲個体の処理に要する労力	以下、該当する算定方法にチェックをいれる。 <input type="checkbox"/> 処理費÷総事業費 ( ) / ( ) <input checked="" type="checkbox"/> 総人工数に対する処分に要する人工数の割合 (処分人工概数 16 ) / (総人工数 383.2 ) <input type="checkbox"/> その他 ( )	

(2) 個体数の推定等に用いた生息密度指標 (CPUE、SPUE を除く)

指定管理鳥獣捕獲等事業の実施区域内において定点のある生息密度指標調査について、該当項目チェック欄にチェックする。

項目	生息密度指標チェック欄	備考
生息密度	<input type="checkbox"/> 区画法 <input type="checkbox"/> 糞粒法 <input checked="" type="checkbox"/> 糞塊法 <input type="checkbox"/> ライトセンサス法 <input type="checkbox"/> 無人撮影装置 <input type="checkbox"/> その他 (            )	生息密度指標の値を記載する。
密度指標を、地理情報で把握している。	<input checked="" type="checkbox"/> 5km メッシュ <input type="checkbox"/> 1km メッシュ <input type="checkbox"/> 地点 (緯度経度) <input type="checkbox"/> 定点	生息密度指標を図化できる場合、概況図を添付する。

※ニホンジカについて、経年的に生息密度を比較するための指標として糞塊法が有効であると考えられており、これまで実施してきた調査手法と合わせ、糞塊法による調査も有効であると考えられる場合は、当交付金事業で行う生息密度指標の調査は、糞塊法による調査の実施を検討願います。

### （３）自然植生への影響の軽減に関する項目

#### ア）指定管理鳥獣捕獲等事業の事業区域内の植生被害状況の基礎的な調査

指定管理鳥獣捕獲等事業の事業区域内の植生被害の情報は、事業効果の測定のための基礎的な情報となる。特に、事業初年度の情報は極めて重要で、後年の事業の効果を測定するための最も基礎的な情報の一つであることから、何らかの情報を収集しておくべきである。下記のチェック項目に示す定量的なデータその他、定量的なデータを取れない場合は、事業区域内の代表的な地点の写真及び撮影位置（地点と撮影方向）を記録して、地図情報として整理しておくだけでもしておいた方がよい（後年、同じ場所で同じ方向からの写真が撮れれば、比較可能である）

事業区域内における 収集項目	事業実施前又は初年度 の情報の有無	備考
①下層植生の被度	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	事業初年度の情報は後年の事業の効果の評価の基本となる。
②指定種の被度や個体数	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	
③保全対象種の被度や個体数	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	
④低嗜好性植物の割合	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	
⑤ブラウジングラインの形成	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	
⑥土壌流出	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	
⑦事業区域内の植生被害状況の写真	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	

#### イ）被害状況の基礎的な調査

数値としてのデータがない場合でも、事業開始時点の事業地の写真は、位置情報を記録した上で取得すべきである。その際、撮影位置と撮影向きが、後で分かるように記録を取得しておく。

事業区域内における収集項目	事業開始時点の値	今年度の値	増減の傾向
①下層植生被度	3.33(令和 3 年度の氷ノ山の調査結果)	1.87(令和 6 年度の氷ノ山の調査結果)	<input type="checkbox"/> 増加 <input checked="" type="checkbox"/> 減少
②指標種の被度や個体数			<input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
③保全対象種の個体数			<input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
④低嗜好性植物の割合			<input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
⑤ブラウジングラインの形成			<input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
⑥土壌流出			<input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少

ブラウジングラインは、「１：なし」、「２：不明瞭」、「３：明瞭」の３段階で評価。

土壌流出は、「１：ほとんどなし」、「２：にわかにあり」、「３：あり」、「４：顕著」の４段階で評価。

#### （４）捕獲にともなう環境への影響の評価

下記項目に関し、環境への影響に関する課題を記入する。その定量的な評価のために収集している項目があればチェックをする。集計した結果がある場合は、別添に添付する。

項目チェック欄	環境への影響に関する課題	定量的評価の算定例 (算定可能な項目にチェック)
鳥類の鉛中毒症例の把握		<input type="checkbox"/> 収容した鉛中毒症例個体の種類・数
鉛中毒防止の措置		<input type="checkbox"/> 非鉛弾の使用のための経費を計上 <input type="checkbox"/> 非鉛弾使用数を把握
錯誤捕獲の実態 錯誤捕獲が想定される鳥獣種：	（錯誤捕獲を未然に防止するための措置）餌の工夫（ヘイキューブ利用）	<input type="checkbox"/> 改良したわなの設置数
	（錯誤捕獲個体に対する措置）	<input type="checkbox"/> 非標的種の種類 <input type="checkbox"/> 非標的種の捕獲頭数 <input type="checkbox"/> 放獣した頭数 <input type="checkbox"/> 傷病の状況

#### (5) 鳥獣保護管理に係る専門家の活用状況

活用した段階ごとに、活用した登録区分の人数と活用概要を記入する。なお、活用した人数には、直接検討委員を嘱託した場合だけでなく、委託業者の従事者や事業に係る意見やアドバイスを求めた者も含めて差し支えない。活用概要には、人材登録者の取組も含めて、具体的な活用内容を記載する。

登録者の一覧は環境省 HP (<http://www.env.go.jp/nature/choju/effort/effort1/effort1-1/index.html>) を参照のこと。

活用した段階	専門家の 総数（数）	活用した専門家のうち、人材登録者の数			活用概要
		プランナー	コーディネーター		
			調査	捕獲	
計画の検討・策定 （必要な調査を含む）					
捕獲					
捕獲手法の技術開発					
捕獲情報の整理・分析、 事業評価・検証					
認定事業者等の育成					



## 2. その他の参考情報

以下は、中長期的に評価すべき項目だが、指定管理鳥獣捕獲等事業を実施し、評価する上で重要な周辺情報として、収集する事が望まれる項目である。指定管理鳥獣捕獲等事業やその上位計画である第二種特定鳥獣管理計画の目的達成状況を計るための指標となる項目でもある。下記は、基本的に、情報の有無をチェックするものである。ただし、事業地内の植生等の被害状況は、重要な情報であるため、事業開始時点の情報がある場合は、現状を記録する。

### (1) 農業被害の防止に関する項目

収集項目	情報の有無	備考
農業被害金額	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	
農業被害面積／農地面積	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	
農地面積	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	
林業被害金額	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	
林業被害面積	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	
被害対策経費	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	
被害者意識アンケート	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	
電気柵の設置距離	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	
防護柵の設置距離	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	

### (2) 生活被害の防止に関する項目

収集項目	情報の有無	備考
交通事故件数	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	
列車事故件数	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	
事故による死傷者数	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	
事故位置情報	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	
市街地目撃情報	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	

## 様式5号の2

### 兵庫県における効果的な捕獲に係る新技術の地域実証計画（評価報告） （効果的捕獲促進事業）

#### 1 対象指定管理鳥獣の種類、技術名、実証地域及び時期

指定管理鳥獣名	ニホンジカ・イノシシ
技術名	効果的捕獲モデル・技術開発タイプ
実証地域	姫路市（夢前町地域、家島町地域）
実証時期	令和7年1月～令和7年3月

注：実証地域の位置が分かる地図を添付すること。

#### 2 現状の指定管理鳥獣対策事業による捕獲の状況及び課題等

銃猟で巻狩りを行う場合、射手、勢子及び猟犬の連携が重要となるため、現地の下見や捕獲計画等を作成し、念入りな事前の捕獲準備を行う。  
下見や捕獲計画の立案は、経験による判断が重要なことから後継者の育成には相当な期間を要することや住宅環境の変化やライフスタイルの変容による猟犬の飼育・育成が困難になりつつあるなか、狩猟者への負担増加が課題となっている。

#### 3 地域実証する技術の概要

赤外線ドローンによる効率的な事前調査等の手法（季節、時間帯等、地形、植生等）を検証

注：実証する技術の写真や内容等の概要が分かる資料を添付すること。

#### 4 具体的な実証の方法・内容

赤外線ドローンにより事前調査を行うことで、対象鳥獣の生息状況を確認することができ下見の省力化を図るとともに、後継者育成の観点からも効率的な指導が可能になると考えられる。

また、赤外線ドローンによる追い上げについては、課題等も散見されはじめているが、射手、勢子及び操縦者の連携に課題があると推察しており、赤外線ドローンの情報共有がすぐさまできれば、効果的な追い上げに繋がると考えているため、これらについて検証し狩猟者の負担軽減と捕獲効率の向上を図る。

結果として、事前調査においては対象鳥獣の位置や頭数を事前に把握できるため、効率的で効果的な捕獲に繋がる待場、勢子のルートを決めることができた。そのため、経験の浅い狩猟者の経験を補うことができた。

追い上げについては、今回の実施区域は常緑針葉樹が多いため、ドローンから対象鳥獣の位置を常時追うことが困難なことから、不適合地として実施しなかった。

注1：2の課題等を踏まえた技術実証の方法や内容を具体的に記入すること。

注2：注1を踏まえ、その評価結果を具体的に記入すること。

#### 5 その他

学識経験者等第三者の意見として、森林動物研究センターから以下の意見があった。

ドローンを活用した事前調査においては、下見の省力化及び、後継者育成に有効であることが実証された。しかし、猟犬による追い出しの代替とならないこと及び、常緑樹林の上空から対象動物の確認が困難であることが課題である。

注：地域実証に当たって、特記すべき事項があれば記入すること。

# 1 巻狩り実施区域（姫路市夢前町杉之内、古知之庄）



## 巻狩り実施結果（二ホンジカ）

実施日	実施区域	生息状況調査確認数	目撃数	発砲数	捕獲数	事後調査
令和7年 2月15日 8～13時	杉之内	1頭	2頭	3発	1頭	0頭
	古知之庄	2頭	—	—	—	0頭

## 2 生息状況調査実施区域（姫路市 家島本島）



### 調査結果

実施日	実施区域	生息状況調査確認数	推定生息数
令和7年 2月20日 8～11時半	家島本島全体	イノシシ 34 頭	120～400 頭
令和7年 2月20日 9時及び12時半	真浦地区西側	9時、12時半ともに イノシシ 5 頭	—

## 様式5号の2

### 兵庫県における効果的な捕獲に係る新技術の地域実証計画（評価報告） （効果的捕獲促進事業）

#### 1 対象指定管理鳥獣の種類、技術名、実証地域及び時期

指定管理鳥獣名	二ホンジカ・イノシシ
技術名	赤外線カメラ付きドローンを活用したより効果的な巻き狩り、忍び猟の実施。
実証地域	佐用郡佐用町内
実証時期	令和6年11月5日から令和7年2月28日

注：実証地域の位置が分かる地図を添付すること。

#### 2 現状の指定管理鳥獣捕獲等事業による捕獲の状況及び課題等

赤外線ドローンを活用した巻狩りにおいては、冬期が最も適していた。  
また、音声による追い立てにおいては、ドローンの追い立てたい方向に対象鳥獣を追い立てることが困難な場合があった。  
忍び猟では、対象鳥獣の位置情報を射手に伝え対象鳥獣の近くまではいくものの、猟場状況により獲物を目視確認できない場合があった。

#### 3 地域実証する技術の概要

①巻き狩り  
冬期においてドローンを使い森林内の獲物（シカ・イノシシ）の潜み場所を随時確認し、その情報を猟師に伝えることでより対象鳥獣を捕獲できる方法を現場において調査検証する。  
②忍び猟  
ドローンを使うことにより、狩猟者が獲物の位置をより把握できる方法がないか調査検証する。  
③誘因試験・馴化試験  
誘引餌による誘引効果の検証及び爆音機による馴化試験を実施する。

注：実証する技術の写真や内容等の概要が分かる資料を添付すること。

#### 4 具体的な実証の方法・内容

・技術実証の方法・内容  
①巻き狩り  
冬期に赤外線ドローンを使用し、森林内の獲物を確認しにくい現場において、猟師が携帯電話のライン等機能を活用して、犬の追い上げも加えて獲物を効率的に捕獲する方法を検証する。  
②忍び猟  
冬期に赤外線ドローンを使い、狩猟者が獲物に近づく方法を携帯電話のライン等機能を活用することにより、現場においてよりよい方法を調査検証する。  
③誘因試験・馴化試験  
誘引餌（ヘイキューブ、オーツヘイ）を撒き、自動撮影カメラにて獲物の寄り付き状況を確認する。また、獲物が誘引餌に定着した際に爆音機を設置し、自動撮影カメラにてシカの爆音機に対する反応を調査することにより、誘引狙撃による捕獲の有効性を検証する。

## ・評価結果

### ①巻狩り

赤外線ドローンを飛行させて獲物の位置や頭数を事前に把握することで、効率的・効果的な捕獲に繋がる待場の配置・勢子のルートの設定ができる。また、巻狩り実施中にも赤外線ドローンを飛行させることで、勢子が効率的・効果的に動くことができ、捕獲作業の時間短縮に繋がる補助的な役割を担うことができる。

### ②忍び猟

赤外線ドローンを飛行させることで、獲物の移動状況をリアルタイムに把握し、臨機応変に戦略を立てられる。

### ③誘因試験・馴化試験

誘因試験では、餌撒きから獲物が餌付くまで約1週間の時間を要し、獲物の出没時刻にはばらつきが確認されたが、誘引効果はあった。また、馴化試験では調査期間中に獲物が爆音機に対し忌避行動を示したが、馴化することはなかった。以上より、従来の銃器捕獲やくくりわなでの捕獲との費用対効果を比較したうえで、誘引狙撃の必要性を見極めながら実施を検討する必要がある。

注1：2の課題等を踏まえた技術実証の方法や内容を具体的に記入すること。

注2：注1を踏まえ、その評価結果を具体的に記入すること。

## 5 その他

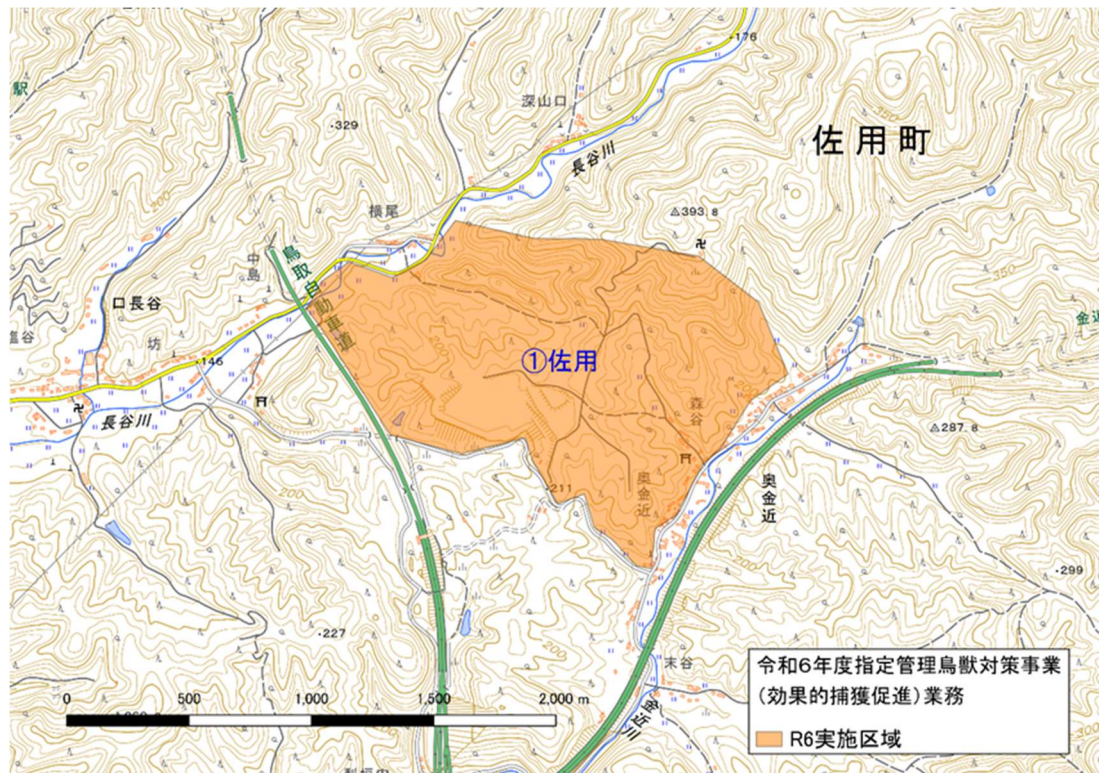
--

注：地域実証に当たって、特記すべき事項があれば記入すること。

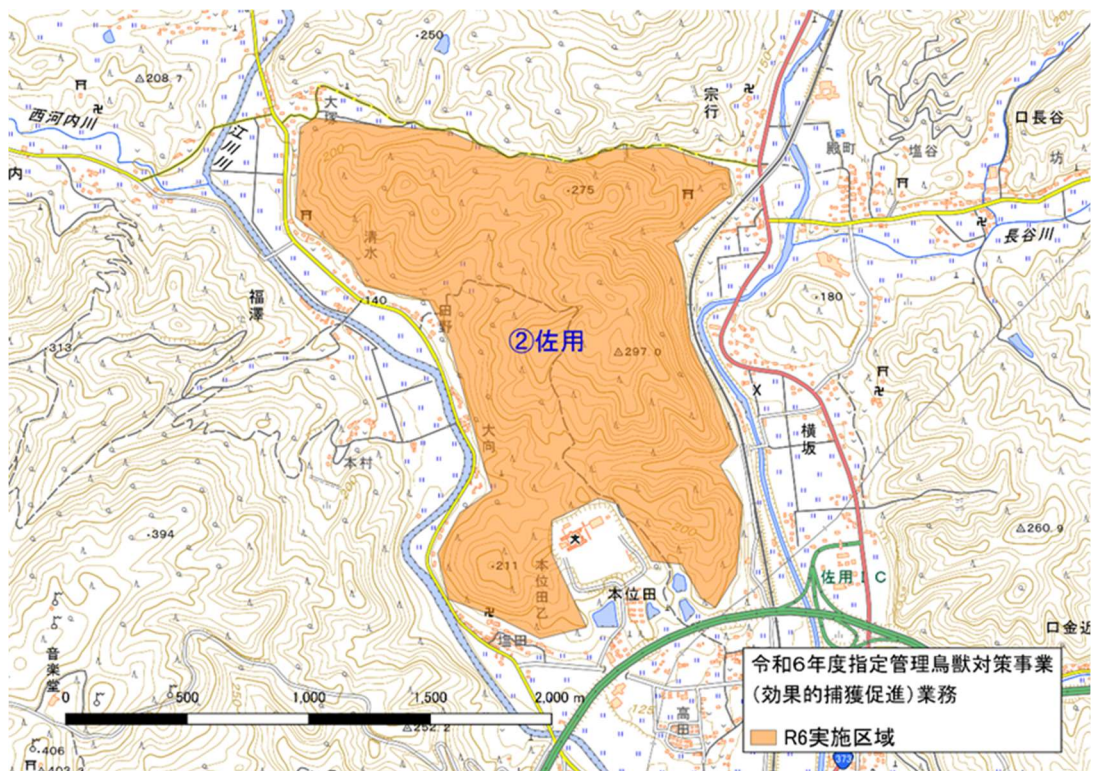


# 令和6年度効果の捕獲促進事業 実施区域図面

## ① 佐用実施区域



## ② 佐用実施区域





令和6年度指定管理鳥獣対策事業  
(効果的捕獲促進) 業務

R6実施区域

⑤南光

御殿山  
△350.5

最明寺

春戦

三日月CC

仁増  
△205.0

天満

151

本郷川

中村

274

③三日月

④三日月

下本郷

高蔵寺

湯浅

三日月の大ムク

341

乃井野

乃井野

三日月山  
△186

乃井野

三日月駅

△207.2

廣山

1,000.5

1,500

2,000 m

大乗山  
△299.8

手ノ角

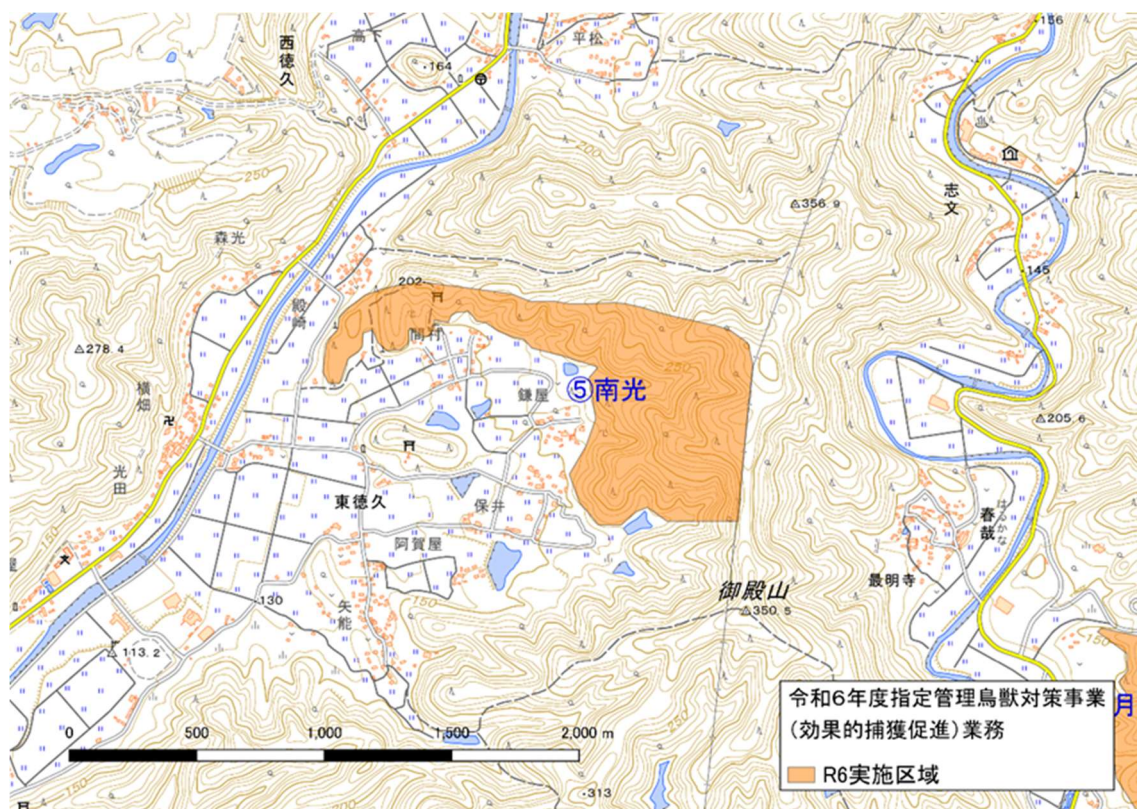
三日月

令和6年度指定管理鳥獣対策事業  
(効果的捕獲促進)業務

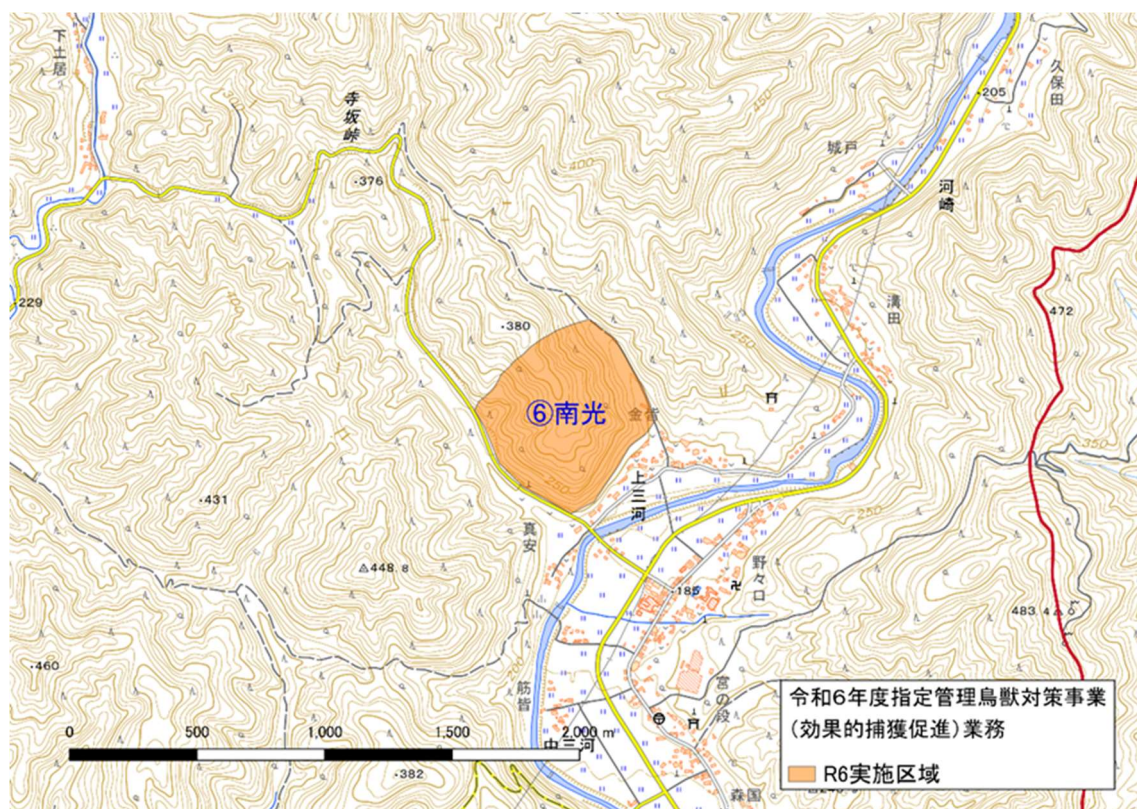
○ R6実施区域



⑤ 南光実施区域（夏季・落葉期・冬季）

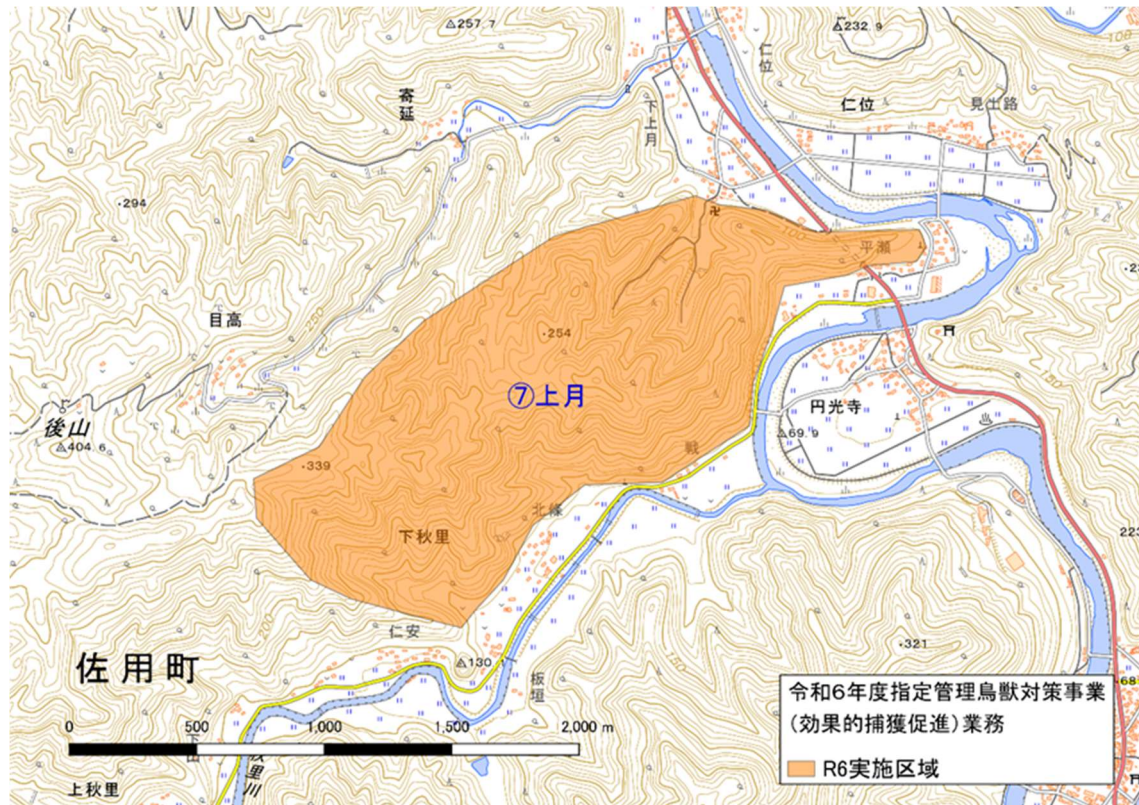


⑥ 南光実施区域

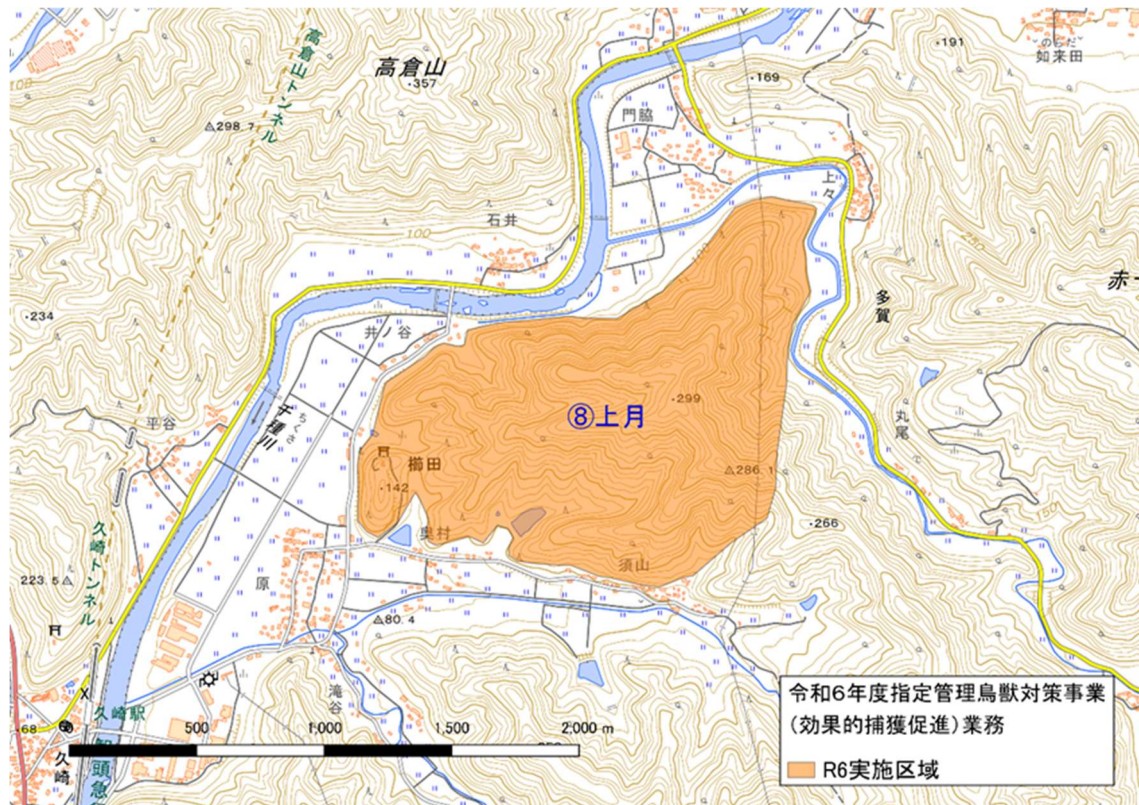




⑦ 上月実施区域

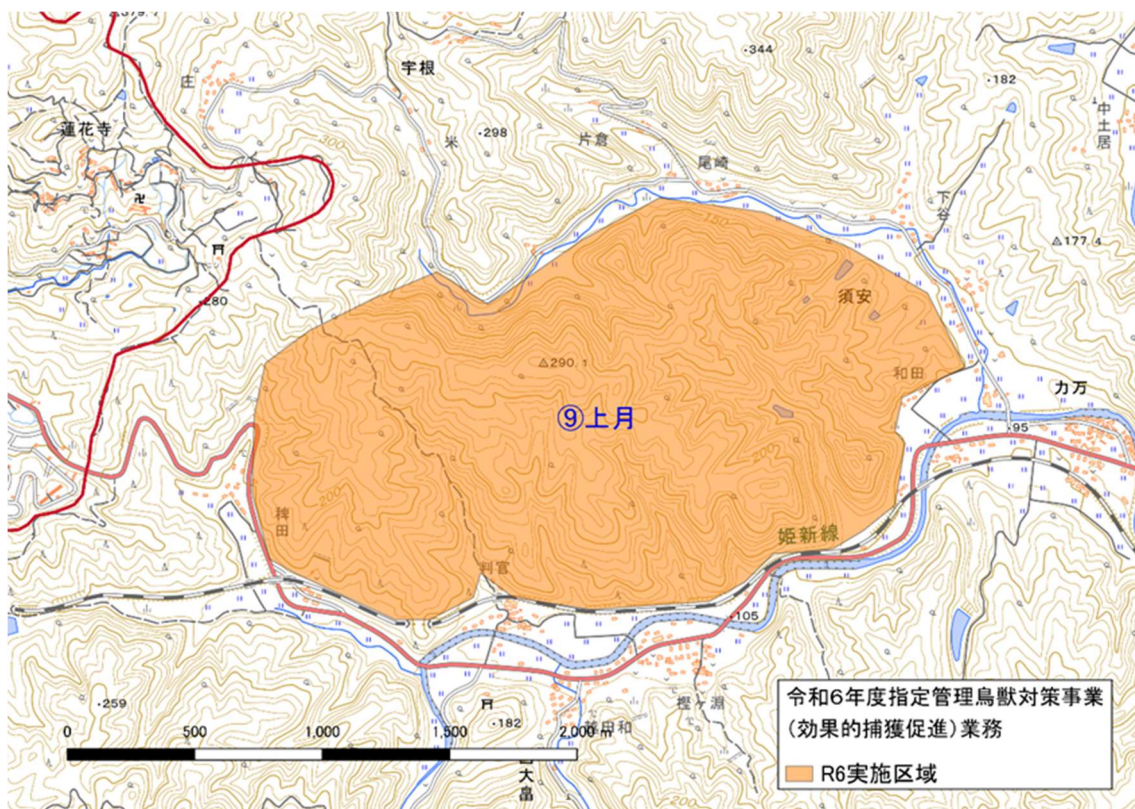


⑧ 上月実施区域

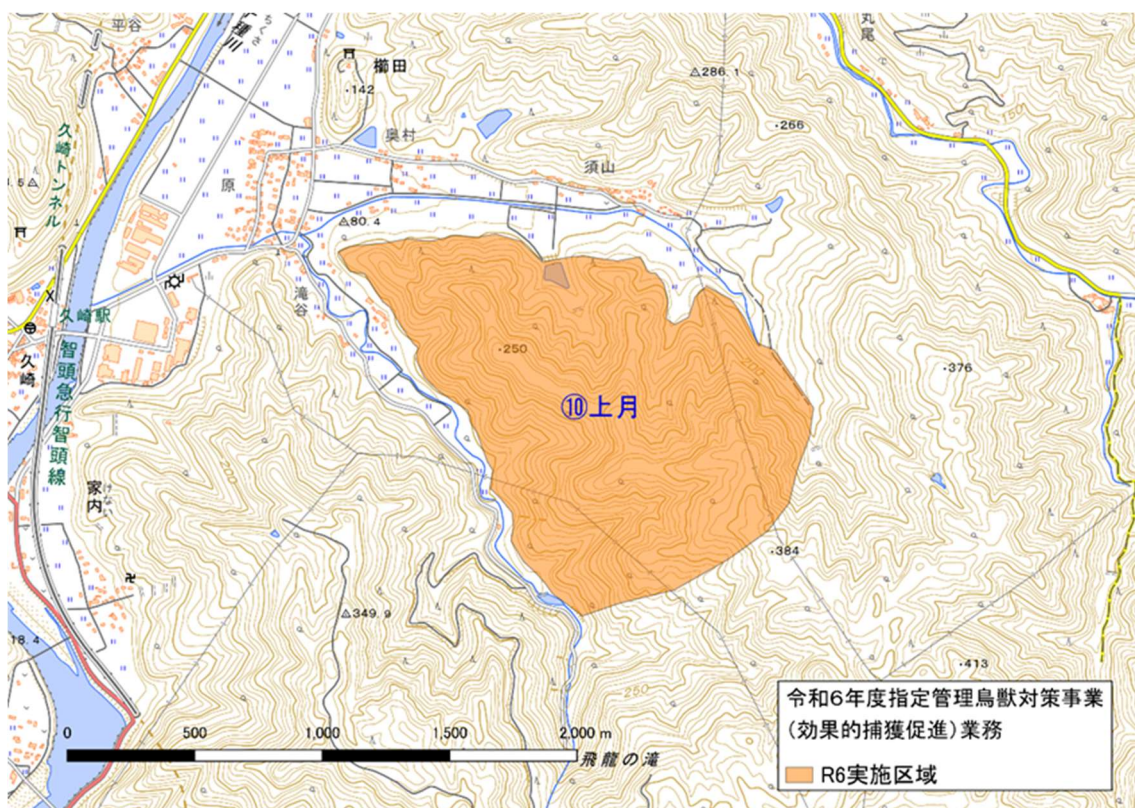


⑨ 上月実施区域





⑩ 上月实施区域



（別紙3-2）具体的な実証の方法・内容

1. 赤外線ドローンによる生息状況調査

実施時期	実施日	実施区域	実施時間帯	猟実施時間	確認獣種・頭数
冬季	1月19日	①佐用	早朝	13～15時	シカ55頭
		②佐用	巻狩り直前	9～10時	シカ207頭
	2月9日	③三日月	巻狩り直前	9～10時	シカ20頭
		④三日月	早朝	13～15時	シカ2頭
	2月9日	⑤南光	巻狩り直前	10～12時	シカ13頭
		⑥南光	巻狩り直前	15～17時	シカ2頭
	1月19日	⑦上月	巻狩り直前	10～12時	シカ38頭以上
		⑧上月	早朝	14～16時	シカ18頭以上
忍び猟	1月29日	⑨上月	忍び猟直前	14～16時	シカ10頭
		⑩上月	忍び猟直前	9～10時	シカ15頭

(別紙3-3) 具体的な実証の方法・内容

2. 赤外線ドローンを活用した巻狩り実施結果

実施日	実施区域	実施時間帯	ドローンによる目撃 (捕獲直前の生息調査)	射手による目撃	発砲数	捕獲数	事後調査
1月19日	①佐用	午前	シカ55頭	シカ3頭	2発	シカ2頭	11頭
	②佐用	午前	シカ207頭	シカ78頭	不明	シカ5頭	133頭
2月9日	③三日月	午前	シカ20頭	シカ5頭	5発	シカ2頭	3頭
	④三日月	午前	シカ2頭	シカ4頭	1発	シカ1頭	7頭
2月9日	⑤南光	午前	シカ13頭	シカ6頭	5発	シカ4頭	0頭
	⑥南光	午後	シカ2頭	シカ4頭	3発	シカ2頭 (半矢1頭)	0頭
1月19日	⑦上月	午前	シカ38頭以上	シカ6頭・イノシ1発	13発	シカ1頭 (半矢1頭)	0頭
	⑧上月	午前	シカ18頭以上	シカ1頭	0発	シカ0頭	3頭

3. 赤外線ドローンを活用した忍び獵の結果

実施日	実施区域	射手	生息状況	実施時間帯	射手による 目撃	発砲数	捕獲数	事後調査
1月29日	⑨上月	A	10頭	午後	シカ1頭	3発	シカ1頭	0頭
	⑩上月	B	15頭	午前	シカ5頭	0発	0頭	0頭

(別紙 8)

## 兵庫県におけるジビエ利用拡大のための狩猟捕獲支援に係る評価報告

### 1 本事業で実施した取組実績

#### (1) 狩猟捕獲経費支援の取組

令和 6 年度の狩猟期間中にニホンジカ 5,068 頭、イノシシ 87 頭が施設へ搬入された。経費支援として、狩猟者に上限 7,000 円／頭の報償費で実施を行った。

#### (2) 処理加工施設における取組

野生鳥獣対策連携センターに事業を委託し、事業に関するマニュアル・Q & A 作成、研修、残渣処分経費支援、認定施設への個体管理資料等の整理・現地指導、事業後のヒアリング調査等を行った。搬入個体のうち対象個体数は、ニホンジカ 4,662 頭、イノシシ 87 頭であった。

注 1 : (1) の取組実績として、受託者名、ニホンジカ及びイノシシ別に支援を行った捕獲頭数実績及び狩猟全体における捕獲頭数等を記入する。

注 2 : (2) の取組実績として、受託者名（施設名称）、講習会等の指導内容、開催回数、参加人数、持込を行った狩猟者数、受け入れた捕獲個体数（ニホンジカ及びイノシシ別）及び廃棄物処分量等を記入する。

### 2 1 の取組による効果や評価と今後の課題等

17 施設で事業を実施した。県全体におけるシカの狩猟頭数は減少しているものの、施設への搬入率は増加（R5 : 約 32%→R6 : 約 34%）した。ジビエ利用拡大につながっていると考える。

次年度以降、さらに参加施設を増やし、現時点、搬入が困難な地域におけるジビエ利用拡大を図るとともに、施設での確認業務の効率化を検討することで各施設の負担軽減を目指す。

注 : 1 の取組による効果や取組の評価を具体的に記入すること。

また、評価等を通じ明らかになった今後の課題等についても記入すること。

### 3 その他

注 : 特記すべき事項があれば記入すること。

(別紙 9)

兵庫県におけるクマ類の調査の実施に係る計画/評価報告  
(調査・計画策定事業)

1 現状のクマ類の調査の状況及び課題等

ツキノワグマによる人身被害は県内で令和 6 年度に 2 件の人身被害が発生している。人身被害を出さないためにも、ツキノワグマの行動特性や地域個体群間の移動を継続して調査する必要がある。そのため人里に入り込み捕獲された問題のある個体において、GPS 装着等による行動調査を行い、今後の個体数管理に繋げていきたい。

2 実施する調査の具体的な内容等

実施時期	令和 7 年 4 月～令和 8 年 3 月
場所	兵庫県内全域
目的・必要性	捕獲された個体情報について、推定生息数算出や繁殖状況など個体群の健全性を判断するための情報を得ることを目的とした。
調査主体	兵庫県
内容・得られる情報	クマの行動特性や地域個体群間の移動、連結性等
方法	GPS 装着による行動調査、サンプル収集及びデータ分析等
活用方法	ツキノワグマ管理計画年度別事業計画
事業費	14,436,459 円
備考	

注：事業前の計画では各項目について想定又は期待される内容を、事業終了後の評価報告では各項目に関する実績や結果を具体的に記入すること。実施する調査が複数ある場合は、調査の種類毎に各項目を記入すること。

3 調査結果及び考察（事業終了後の評価報告時のみ）

今回の GPS 装着による調査で捕獲されたある問題のある個体において、地域個体群間だけでなく地域個体群の外へも移動していることが確認された。また問題個体が再度集落へ出没し、放任果樹を食べていることも確認されたため、今後は放任果樹の伐採を進めていくことが出没防止対策として有効であると考察される。



注：調査によって得られた情報と分析結果、調査結果の活用方法等を記載するとともに、今後の改善点や必要な調査等についても記載すること。

#### 4 その他

学識経験者等第三者の意見として、森林動物研究センターから以下の意見があった。  
集落周辺に出没するクマの行動解析を実施したところ、集落周辺に放置された柿などの誘因物に大きく依存していることが判明した。また、昨年のように山の実りが少ない年は、エサ資源を求めて例年よりもクマの行動域が大きく拡大することも判明した。

このようなことから集落等へのクマの出没対策としては、不要果樹等の誘因物の除去が有効であることが示唆された。

注１：モニタリング・調査の実施に当たって、特記すべき事項があれば記入すること。

注２：事業終了後の評価報告において、特記事項に対するコメントがあれば記入すること。